

■生田万 国学者。大塩平八郎の乱に応じるように、門弟同志窮民と柏崎の大久保陣屋を襲撃したが、敗死した。

いくたよるず

宣長没・・・1801＝ 上野国館林で、藩主松平斉厚の家臣生田信勝の長男に生まれる。

浮世風呂・・・1809＝ 8歳：この頃、藩校道学館に入学し、
・・・1810＝ 9歳：

崎門派の朱子学を学んだが、次第に疑問を持つようになり、

・・・1815＝14歳：この頃から、独学で漢詩文を学び始め、祖父生田抱一の「大中経」を通じて陽明学を奉じ、

藩主が藩士の子らに朱子学を強制するのも嫌って無視、

水野忠成老中1818＝17歳：

群書類従完結1819＝18歳：

・・・1820＝19歳：この頃から和歌を学び始め、賀茂真淵・本居宣長らの書にも親しみ、平田篤胤の思想に傾倒、

伊能図完成・1821＝20歳：時の仁孝天皇に拝謁する夢を見て感動してさらに批判を強め、藩仲間と疎遠となり、孤立して行く。

シボ^ホ朴来日・1823＝22歳：日光東照宮に参拝した際、皇祖・天皇も憚らないような建物と表現、

シボ^ホ朴鳴滝塾1824＝23歳：*館林の商人で終生の友荒井静野の紹介を受け、平田篤胤に入門。静野と「新選上野国志」の著述も開始。

異国船打払令1825＝24歳：_江戸に赴き、篤胤に対面。

日本外史・・・1827＝26歳：帰藩。宣長の「秘本玉くしげ」を下敷きに、

シボ^ホ朴事件・1828＝27歳：*藩政改革意見書「岩にむす苦」を提出し、家士の土着を論じたが、容れられず追放される。

_家族を連れて再び、江戸に出、平田篤胤の家に寄寓、門下生第一の俊秀となって将来を囑望され、一時篤胤の養子にまでなるが、幕政批判の言動で篤胤の身边に迷惑をかけるようになったため、自ら身を引き、

富嶽三十六景1831＝30歳：_父の死で帰藩も許されるが、家督を弟に譲って、下野国新田郡太田に住し、

天保大飢饉始1833＝32歳：後援者の一人が私費を投じて塾舎を建ててくれ、家塾{厚載館}を開く。

天保の大飢饉のなか、

・・・1836＝35歳：_篤胤の推薦で同門の樋口英哲に招かれ、越後国柏崎に移住、私塾{桜園}を開き、貧民救済にも尽力。

大塩平八郎乱1837＝36歳：*大坂で大塩平八郎が兵を起こしたのを知ると、共感を抱いて情報を収集、門弟同志窮民らと“奉天命言朱国賊”の旗を掲げて、柏崎の大久保陣屋を襲撃したが、敗死した。

「古易大象経伝」「大中道人謾稿」「伊迷遅能布美」「日文伝評論」「大学階梯外篇」「古学二千字」「良薬苦口」。